

連続爆発事件の真相を追う社会派サスペンス

物流業界の危機を回避しようと奮闘する姿は、たまらなくスリリングだ。

この企画の出発点は、塚原監督の「家に届く荷物がもし爆発したら」という考えからだそうだが、可能性がゼロではない設定だけに怖い。ほかにも、現実社会と重なる事象がちらほらあり、「荒唐無稽な話」で済まされないリアリティがある。注文すると、早ければ翌日には届く荷物。私たちは、それが当然のことだと思っているが、そこには巨大な物流網と緻密な配送管理システム、そして大勢の人間が介在している。自分たちがそうした利便性をいかに無自覚に享受しているか。それを大いに痛感させられる。

見る者に考える機会

「ラストマイル」とは物流において、お客へ荷物を届ける過程の最後の区間を表す言葉だという。本作は、これまでみんなが気付きながら、なかなか改善できない物流業界の問題に果敢にメスを入れている。その問題のひとつが、「安さ」と「速さ」を求める私たち客だ。ほかにも、はっと胸を突かれる言葉や出来事が、この作品にはある。エンターテインメント作品でありながら社会性も備え、見る者に考える機会を与える。さすが、塚原・野木タッグの作品

です。

「ラストマイル」で興奮と緊張を味わったら、今度は肩の力を抜いて楽しんでみては？ というわけで、もう1本ご紹介したいのが、「スオミの話しよう」(9月13日公開)。三谷幸喜監督が脚本も書いたミステリーコメディ。スオミという女性が失踪し、彼女の家に集まった今の夫と4人の元夫が、スオミとの思い出を語りですが、彼らが話すスオミは、見た目も性格もまるで別人で……。

往年のハリウッド映画の匂いと品の良さがそこかしこに感じられ、また三谷監督らしい設定と演出で失笑することもしばしば。なんととっても感嘆するのは、長澤まさみ演じるスオミの華麗な(?)変貌ぶり。そんな彼女を取り巻く、坂東彌十郎、西島秀俊らが演じる、すこぶるユニークな夫と元夫たちのやりとりは、愉快なことこのうえない。彼らが歌い踊る、三谷監督曰く「かつてのMGMミュージカル風」のエンディングまで、一気に楽しめること請け合いです。

映画「ラストマイル」の一場面。事態の收拾にあたるエレナ(右)と孔(左)

